

「子育て支援」各地の取り組み 新潟市北区

育ち合う姿を応援し、温かくサポートする必要性を感じて

豊栄児童センター長 伊藤 弘子

今年の1月に東京で「BPファシリテーター養成講座」を受け、早速、新潟市「豊栄児童センター」で“親子の絆プログラム”を開催し、この6月に2回目を実施しました。このプログラムを届けることができたことはとても有意義で、お母さんたちのいきいきとした姿にとってもほほえましく感じるとともに明るい未来を感じます。

BPに出会い、新潟でもこのプログラムを広げて行きたいと今年6月に「BPファシリテーター養成講座」を開催させていただくことができました。これまでを振り返り、これからの思いを再確認していきたいと思えます。

声をかけてくれる人もなく

子育てで一度専業主婦になりました。同居先の両親は農家で、様々な環境が違いました。第一子の出産後、近所をベビーカーで散歩してもなかなか子どもに会いませんでした。子育てをしている人はどこにいるのだろうか？ 自分の実家のあたりでは声をかけてくれる方たちがたくさんいるのにとっても淋しかったものです。18年前は、まだ子育て支援センターが新潟市に2か所しかありませんでした。そんな時、近くの公民館で親子のふれあい遊びを楽しむ会がありました。遊ぶ年齢は少し大きく、2歳くらいになったら参加できるものでした。私も参加して楽しませていただきました。親子での遊びが楽しければかきでなく、話をすることが楽しかったことを覚えています。

上の子が幼稚園に行き手が空いたときに、「赤ちゃんが遊べるような所がないよね。和室でできないものか？」というニーズがあり、仲間と子育てサークルを作りました。この子育てサークルができて、今年で15年が経ちます。年々、働くママたちが増え、支援センターやサロンが増え、会員も少なくなりましたが、育児休暇中にも足を運び子育ての悩みを話したり、一緒に楽しく活動しています。ここで繋がった仲間たちは、地域で繋がります。一緒に活動をすることが楽しくなっているのです。小学校に行ってもずっと安心できる仲間です。土曜日の公民館での子どもたちの体験活動も、お母さん同志でサポートしてずっと続けてきました。PTA活動にも繋がりが、たくさんの方が活躍されています。

うまくファシリテートできていたら

良いことばかりではなく、葛藤もありました。気の合う仲間とはいえ、考え方が違ったり、様々な価値観のもとで、悩んだこともあります。子育てについてもお兄ちゃんなんだから、という事を言って育てるかどうか？ けんかはすぐにやめさ



せるべきか、少し見守って・・・いろいろな事がありました。嫌な思いをすることもお互いにあったかもしれませんが、お互いの価値観を認めることが、NPやBPのようにできると良かったのではないかと今更ながら、あの頃を振り返ります。

うまくファシリテートする事ができていたら、と思う事があります。その後たくさんのグループに関わり、様々な子育てのグループや、支援センター、幼稚園、保育園の親子のふれあい遊びに関わってきましたが、「親子の絆を大切に、時間の共有をじっくりと、この時期が大切ですよ」と伝えてきました。求められる時期にしっかりと向き合って絶対的な信頼感を持つために、子どもとの関係性を作っていきます。そしてグループでの子育ては、人の子育ての様子を見ることができる大切な場であることを伝えてきました。

関わり方、叱り方、誉め方、どんなものを着せているか？ どんなものを食べさせているか？ 予防接種はどうしてる？ 本当に当事者同士の育児相談の場となります。どんな育児書よりも生のアドバイス、共感、ピアサポートはとても大切なものでした。子育て支援は親子支援のみならず、家族との関わり、地域との関わり、地域学や、ネットワーク、また人づくりというところにも繋がります。乳幼児親子の支援は子育ての原点であり、スタートをどう切るか、人とかかわって子育てをしていくことの意味を大切に感じています。

はじめの一步

BPプログラムは一步を踏み出すためにとっても重要な機会です。家に閉じこもりがちな親子が外に出て人と出会うその勇気とチャンスを大切にしたいものです。「自分の住んでいる地域をベビーカーで散歩しても子どもたちがいない。公園にも子どもはいない」という事は今でもあるようです。そして最近「支援センターに行ってもなんだか空しい時がある。毎日、行き場所を探している」というお母さんの声も聞き、相談ケース

## つながることは安心につながる

もあります。そんな時安心して話せる仲間がいたら、そしてその安心感は勇気と活力になり、エンパワーされていくのではないのでしょうか？ 子育て中のお母さんたちのできる子育て支援、お母さん同志でしかできない支援がたくさんあることを伝えてきました。

私の学びの幅の広がりには、「社会教育主事」というものです。生涯学習社会の構築、そして従来型の社会教育行政の範疇から、広範な社会教育活動に対する総合的な支援が求められているところです。より広範な住民の学習活動を視野に入れていく必要があるため、関連事業に協力していくことや、学習活動全般に関する企画・コーディネート機能といった役割をも担うことや調整に関する役割が期待されています。大きな活動に取り組むためにはチーム力が必要です。組織があることによりできることは広がります。

### 育ち合いねっと

新潟市が平成19年4月に政令指定都市になったことも大きく影響していますが、区ごとに取り組むことが多くなり、区づくり予算、合併建設計画など色々な事をとりまく環境として私たちにも影響が大きかったように思います。私は現在の勤務先である新潟市北区にある「豊栄児童センター」の立ち上げのメンバーとして入りました。平成21年度から指定管理者として、「NPO法人新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター」が管理運営をしています。児童館、児童センターは「18歳未満のすべての子どもを対象とし遊び及び生活の援助と地域における子育て支援を行い、子どもを心身ともに子どもを心身ともに健やかに育成することを目的とする。子育て家庭へ支援や子育て交流の場を提供し、地域における子育て家庭を支援する事」という役割があります。地域子育て支援の拠点となるような児童センターを目指しています。親子のふれあい遊びや、リフレッシュ事業はもちろんですが、集まるきっかけ、孤立しないようにと、まずNP講座を始めました。年に2回、地域子育てとして地域に2回程度を開催し、4年目を迎えました。NPで繋がったメンバーが児童センターに遊びにきてくれます。安心した仲間が繋がっている様子が見られます。どこかへ出かけた話しや、ほかの方の情報などととても前向きに積極的の外に出ている様子で元気な姿にほほえましく思います。

年々、参加する方のお子さんの月齢が低くなると感じています。NP講座の中でも少し擦れ違いを感じているところで、第1子の0歳への課題を感じていました。そこへ三沢直子先生(C.C.C代表)から「BPプログラム」をすすめてられました。まさに必要としていたプログラムで、感動しました。生涯学習や社会教育、家庭教育そして地域福祉、今後の課題は医療、母子保健分野とのつながりが

必要になってきます。この専門性はなかなか身につけられるものではありません。自分にできることはつなぐことだと思っています。そのために、地域資源の情報を集めること。そして地域の中での子育てのネットワークをつないで見守り、安心して子育てできるようにしていきたいと思っています。新潟市北区の子育てネットワーク“育ち合いねっと”の一員としても活動をすすめています。お母さんたちが主役になり、一緒にサポートしながら子育てマップを作ったり、サークル交流会でお出かけなどみんなで企画できるようにしています。ポータルもたちあげました。

### 角度が違いながらも仲間

毎日、児童センターには0歳から18歳までそれぞれが自分の意志で来てくれます。0歳からまきまきに、思春期の子どもたちの育ちが手に取るように見えます。児童厚生員としてどうかかわるか？ 一人ひとりを大切に作る心、安心できる場所にするために、幅広い年代層への対応が求められます。時には、毅然とした態度を示します。基本的には寄り添えるように心がけています。育ち合う姿を応援し、温かくサポートすることの必要性をスタッフは学び合っています。自分でできることは自分です。ルールを守って気持ちよく。信頼を届けるために言葉かけをする。また会おうね。待てるよ。全ては安心のために。笑顔のために。そして私たちも来館者から元気とパワーをもらいエンパワーメントしています。子育て支援にカリスマはいらない。横のつながりと安心感、そしてベストを尽くすための自らの力をつけてほしい、と思います。子育て期を楽しみ、充実させて笑顔で過ごせるために、親同士のつながりは、夫婦の関係にも深く影響しているように思います。そして支援者にも同じことが言えると思います。NPのファシリテーター、BPのファシリテーターみな角度が違いながらも仲間です。

原田正文先生に熱いコールでお願いし、実現した新潟でのファシリテーター養成講座は、熱い思いを持った仲間、同じ思いの仲間が集まりました。BPを広めたい。一緒に子育てを支える仲間が新潟にいることは心強く、安心なものです。これからの新潟に明るい未来を感じます。

母親も、支援者も、一緒に頑張る仲間がいることは、とても心強く安心なものです。心がつながり、ネットワークを広げ繋がりをさらに深め、元気な笑顔が集まり、元気が広がっていきます。

BPプログラムの評判はとても高く、次はいつですか？ とロコミで広がっています。新潟市北区では秋から今回の養成講座の修了生の活動の輪を広げ、連続で地域ごとにBPを6回程度開催予定です。待っているお母さんたちがたくさんいる。届けたい。出会いにウキウキした気持ちです。

